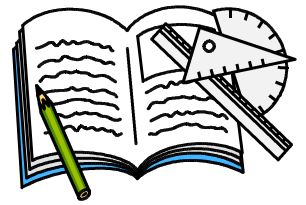


# 協会だより

小笠教育研究協会事務局  
第2号  
平成29年6月21日



## 平成29年度小笠教育研究協会 各研究部活動方針・一斉研究報告会一次案等

例年、国語・算数の研究部に参観者が集中します。効率の良い研修が行えるように、上限（国語教育 80 人、算数教育（小） 60 人）を設けさせていただいておりますが、一昨年度からは各校ごとに参加人数枠も設けさせていただいておりますので、御了承ください。詳細につきましては、後日お知らせいたします。お便りの最後に、今年度の教育講演会について記させていただきます。

研究部名とテーマ	活動方針や柱	一斉研究報告会の一次案等
<p><b>国語教育</b></p> <p>「豊かな言葉で 確かに伝え合う 国語科教育」 ～生きて働く言葉の力の育成を目指して～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科学習会の開催</li> <li>・各小中学校の校内研修（研究授業・研究発表会）等への国語研究委員の参加</li> <li>・国語研究委員による校内外研究授業への相互参加</li> <li>・平成 29 年度静教研国語部夏季研究大会（小笠・榛原大会）に向けた研究推進</li> <li>・一斉研修報告会での授業公開及び研究協議</li> </ul>	<p>中学校を開催校として検討中</p>
<p><b>社会科教育</b></p> <p>『社会的事象に主体的に向き合い、よりよい社会のあり方を追究し創り上げていこうとする子どもの育成』</p> <p>[小]「社会的事象を意欲的に追究し、自らと社会とのつながりを様々な見方からとらえ、よりよい社会のあり方を考えることができる力を育てる」</p> <p>[中]「広い視野に立って社会的事象を追究し、社会の一員としてよりよい社会の実現に向け、行動することができる力を育てる」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次期学習指導要領を視野に入れた小笠の社会科の授業づくり（小学校）</li> <li>・地域教材の発掘と授業化</li> <li>・評価のあり方の指針作成</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善 →「思考ツール」を活用した授業改善 等（中学校）</li> <li>・生徒が主体的に取り組む授業形態の開発 → 授業のネタ、思考ツール、ICT の活用、小笠授業案 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開（小…第二小 中…城東中の予定）</li> <li>・講師を招聘して社会科授業のあり方に関する学習会（小…地域支援課指導主事、中…外部講師）</li> </ul>
<p><b>数学教育</b></p> <p>考え合う楽しさを味わいながら、数学を創造する授業をめざして</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 思考力・表現力を育む授業を通して</li> <li>(1) 基礎・基本の定着が図られる多様な指導を工夫する。</li> <li>(2) 数学的な見方や考え方を駆使しながら、課題解決に取り組む工夫をする。</li> <li>(3) 思考や表現を「振り返る」ことで、考えが深まったり視点が広がったりできるようにする。</li> <li>(4) 「自分たちで算数・数学を創った」と実感できる指導を工夫する。</li> <li>(5) 獲得した知識や考え方、表現の仕方、他の場面に進んで活かす手だてを工夫する。</li> <li>○研究の成果を、秋の一斉研修報告会、静教研夏季大会の実践発表を通して会員に広める。</li> </ul>	<p>[小学校]</p> <p>授業者：佐藤仁美 教諭（中央小） 司会者：萩原卓也 教諭（大淵小） 助言者：正木孝昌 氏（前國學院大學 栃木大教授）</p> <p>[中学校]</p> <p>授業者：松下裕伸 教諭（菊川西中） 司会者：石川真男 教諭（掛川東中） 助言者：未定（ ）</p>
<p><b>理科教育</b></p> <p>「科学的な見方・考え方をはたらかせて、主体的に自然の事物・現象に関わりながら、問題解決する授業」</p>	<p>①小笠協会理科部の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科論文集の配付（7月初旬予定）</li> <li>・学生科学賞の小笠地区審査会</li> <li>・一斉研 平成 29 年 11 月 8 日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参観授業（菊川市立加茂小学校 藤原靖也 教諭）</li> <li>・事後研修会</li> </ul>
<p><b>音楽教育</b></p> <p>音でつながろう とさめき的心</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校 9 年間を見通した音楽指導の系統性についての研究を推進する。</li> <li>・楽しく学ぶことができる音楽授業のあり方について、特に表現領域（歌唱・器楽・音楽づくり）の指導法に焦点を当てた授業実践を推進する。また、指導力向上の機会として、実技研修会を実施する。</li> <li>・研究や授業実践の内容について、音楽部報「Sing a song」を通して発信したり、授業公開を積極的に行ったりすることで校内及び各学校間のネットワーク構築を積極的に推進する。また、1 年間の研究成果を発表する場として一斉研究報告会を実施する。</li> </ul>	<p>授業研究をもとに、表現領域の指導方法について学び合う。また、講師を招聘し、小中 9 年間の指導内容の系統性について学んだり、日頃の授業実践について報告し合ったりする機会とする。</p>

<p><b>美術教育</b></p> <p>いきいきと表現し、かかわりを深め広げる授業</p>	<p>表現することを通して「生きる力」を育てる図工美術教育について研究を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 興味をもたせる題材研究</li> <li>2 付けたい力、目標が達成される授業研究</li> <li>3 かかわりを深め広げる授業研究</li> <li>4 小中連携と図工の授業力向上</li> </ol> <p>以上4点の柱を中心に実技研修会、一斉研究報告会を通して広めていく。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小中連携の授業公開</li> <li>2 事後研修会</li> <li>3 分散会</li> </ol>
<p><b>保健体育教育</b></p> <p>運動の楽しさを味わい、自ら課題を解決する子どもを育てる保健体育授業</p>	<p>○ 授業を語れる教師の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの研究を踏まえ、引き続き思考判断に重点を置いて、指導方法の研究を進める。</li> <li>・昨年度から「表現」の運動領域についての研究実践に取り組んでおり、今年度も同じ領域でさらに深める。</li> <li>・専門家に協力を要請し、「表現リズム遊び」「表現運動」「ダンス」について共同研究を行う。可能ならば、実技研修や講師や、一斉研の指導助言をお願いするなど、皆が学び合う場を設定する。</li> <li>・小中学校間での情報交換の場をもち、つながりを意識した実践を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考判断に重点を置き、中学校において「表現運動」で公開授業を行う。協議では、表現運動における具体的実践方法について学び、思考判断力を高める指導方法について話し合う。</li> </ul>
<p><b>技術・家庭科教育</b></p> <p>学びをつなげることを通して、実践的な態度を育てる授業</p>	<p>H29、H30 静教研発表に向けて、基礎研究を土台にした実践</p>	<p>技術科：9月10月の授業発表の事後研修※授業は行わないため、家庭科と同じ会場を希望</p> <p>家庭科：平成30年度静教研発表（身近な消費生活と環境）に向けての授業実践に関する研究</p>
<p><b>小学校家庭科教育</b></p> <p>学びをつなげることを通して、実践的な態度を育てる授業 （平成29年度からの県技術・家庭科部テーマ）</p> <p>&lt;目指す子ども像&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習得してきた知識や技能をつなぎ、生活の中の課題を工夫して解決していこうとする子ども</li> <li>・社会の変化に対応し、よりよい生活へつなげる評価・判断をし、自分の力でやりとげることができる子ども</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小学校家庭科各題材で、つけたい力を明確に押さえ、より効果的な学習活動を仕組む。</li> <li>(2) 各題材における評価のあり方を検討し、指導に生かす。</li> <li>(3) 年間を見通し、各題材の学びがつながるような題材構想を考える。</li> <li>(4) 上記3点を研究し、一斉研究報告会で研究授業を公開する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業公開（授業者 掛川市立和田岡小学校 白松麻友子教諭）6年「工夫しようおいしい食事」（指導助言 県総合教育センター総合支援課小中学校班長 谷川浩子指導主事）</li> </ul>
<p><b>英語教育</b></p> <p>「小・中・高へとつながるコミュニケーション能力の育成」</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成29年度 小笠・掛川地区小・中・高英語教育連絡協議会（掛川工業高校）</li> <li>(2) 小笠英語話し方能力研究発表大会</li> <li>(3) 平成29年度一斉研究報告会</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 講演：授業観について</li> <li>(2) テーマ別分散会（TTの効果的な運営、学びを深める学習形態の工夫等）</li> </ol>
<p><b>生活科・総合的な学習</b></p> <p>気付き かかわり よりよく生きる 生活科・総合的な学習の時間</p>	<p>新学習指導要領を踏まえ、これまで生活科や総合的な学習の時間に培ってきた課題解決や探求的な学習を一層充実させ、「主体的・対話的で深い学び」に向かうような学びを目指していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開を行い、それをもとに研究協議をする。</li> <li>・授業者 澤入 朋美 教諭（白羽小）</li> <li>・講師 現在検討中</li> </ul>
<p><b>生徒指導</b></p> <p>機能的で継続可能な生徒指導体制の確立 ～開発的・予防的生徒指導について～</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 開発的・予防的生徒指導の研修推進</li> <li>(2) 情報モラル教育の研修推進</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校の指導事例発表</li> <li>・講演・講話（菊川南陵高校名誉校長 平野 豊 様「開発的・予防的生徒指導について」）</li> <li>・分科会（開発的生徒指導の各校の取り組みについて）</li> </ul>
<p><b>特別活動</b></p> <p>楽しく豊かな生活をつくる集団活動の創造 ～集団の一人一人が参画する特別活動～</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「誰もができる話し合い活動（仮称）」に向かって、研究を進め、その成果を通じて、各校への特別活動の推進に寄与する。</li> <li>(2) 一斉研究報告会においては、上記の方向を具体的に授業公開の場を通して、特別活動の重要性及び取組促進に努める。</li> <li>(3) 上記の取組を次年度へ引き継ぎ、平成31年度静教研夏季研究大会への発表へとつなげる。</li> </ol>	<p>講話と学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師は静西教育事務所指導主事（予定）</li> <li>・講話及び学習会の内容は左記（3）に準ずる</li> </ul>

<p><b>道徳教育</b></p> <p>『よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成 ～考え、議論する道徳を通して～』</p> <p>考える発問の工夫、評価の工夫について研究を進める。</p>	<p>(1)平成 30 年度「特別の教科 道徳」の完全実施を見据え、国・県・市等の方針に基づいた、先進的な研究を進める。</p> <p>(2)小笠地区の道徳教育の充実と発展のため、一人一人の資質・能力の向上を図ると共に、研究成果を広く発信する。</p> <p>(3)一斉研究報告会等、研究は部全体として組織的に行う。</p> <p>(4)研究においては、PDCA サイクルに沿い、評価改善まで行う。</p> <p>(5)平成 30 年度静教研夏季研究大会開催に向けた実践発表等の準備を進める。</p>	<p>○授業実践に基づく研究協議 公開授業：4年生道徳「高橋万浦教諭」（佐束小学校）</p>
<p><b>書写教育</b></p> <p>課題を見つけ、より正しく書こうとする子の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・席書コンクール、書き初め等の取り組みを軸とし、日々の書写指導や作品の評価を通して自分の課題がもてるように指導するとともに、児童生徒の学習意欲を高める。</li> <li>・夏季実技研修において講師の指導を仰ぎながら指導者としての力量を高める。</li> </ul>	<p>小笠地区席書コンクールの審査及び書写実技に関する研修</p>
<p><b>学校図書館</b></p> <p>知識をつなげる 学びを広げる 心をはぐくむ 学校図書館 ～本に出会い、本に関わり、本と生きる～</p>	<p>(ア) 授業公開と講師招聘により、実践的な指導力を高めるための一斉研究報告会を実施する。</p> <p>(イ) 読書感想文や読書感想画コンクールへの参加を通して、読書意欲の高揚を図る。</p> <p>(ウ) 読書センター、学習センター、情報センターとしての機能を発揮し、学びを支える学校図書館の充実を図る。</p>	<p>授業研修（公開授業と分科会・事後研修・講話） 会場：掛川市東中学校 授業者：平岡綾子教諭</p>
<p><b>学校保健</b></p> <p>子どもの健康問題解決に向けた実践的能力を高める ～困り感のある子への対応と校内組織へつなぐ支援～</p>	<p>養護教諭が、困り感のある子への対応を学び、校内組織につなぐ支援ができるようになることを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡大学教授 鎌塚優子先生を講師招聘して、特別支援教育における養護教諭の役割を学ぶ。</li> <li>・研究推進委員による、テーマに沿った研究報告を行う。</li> </ul>
<p><b>事務</b></p> <p>子どもの豊かな育ちを実現する学校事務</p>	<p>学校経営に積極的に参画するための力量形成を、実務能力（スペシャリティー）向上を目指した研修及び実践により進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導講話 事務職員会担当 掛川市立日坂小学校 佐藤 裕子校長</li> <li>・東海プロジェクトから提案</li> <li>・給与関係事例研修（グループワーク）</li> </ul>
<p><b>特別支援教育</b></p> <p>一人一人の良さや可能性を伸ばし、豊かに生きる力を育む特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の大きな転換期に入る今、学校間・教師間の連携を密にし、組織の活性化を図る。</li> <li>・特別支援教育の推進者の世代交代を見据え、若手の人材を育てるため、各班での研修会を推進する。</li> <li>・7月27日、28日に行われる東海北陸研での分科会提案の準備をしていく。</li> <li>・児童・生徒の将来の自立を踏まえ、保護者を対象とした講演会を9月に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立掛川特別支援学校御前崎分校を会場に開催する。内容は、①現場実習報告会の参観。②分校の概要説明。③分散会（スタ</li> </ul>
<p><b>情報教育</b></p> <p>ICT を効果的に活用したアクティブラーニングの実現</p>	<p>(1)ICT の可能性を探り、ICT を使った夢の実現。</p> <p>(2)学校を飛び出した学習活動の展開（教科間、学校間、県外、海外などとの交流）</p>	<p>(1)公開授業（大須賀中 川中教諭） (2)研究協議会 (3)タブレット講習会（iPad &amp; Windows）</p>
<p><b>学校給食</b></p> <p>「心と体の健康を育む食育」の推進</p>	<p>(1) 学校給食を含む食育を学校教育全体の中で体系的・計画的・組織的に推進する方法を研究する。</p> <p>(2) 栄養教諭・学校栄養職員と学級担任・給食主任・家庭科主任・養護教諭との連携力を高める。</p> <p>(3) 研修を通して栄養教諭・学校栄養職員の専門性を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業（和田岡小学校6年1組白松麻友子教諭・川崎千鶴栄養教諭によるTT指導）</li> <li>・研究協議及び講師による指導助言</li> </ul>

<b>事業部</b> 「小笠の文化や教育力」を向上させる事業を計画し推進する	・児童生徒が1つのことに熱中して取り組むことを奨励し、その努力を称揚する。 ・他校の児童生徒の作品に接することを通して、児童生徒や教職員の意欲や意識を高め、小笠の文化や教育力の向上に役立てる。	・小笠地区小・中学校総作品展 9月16日(土) 17日(日) 菊川市総合体育館で開催
	・児童生徒によって書かれた良い作品を選定し文集にすることで、その努力を称揚する。 ・掲載された作品を児童生徒が読み、表現の仕方を学ぶ事で小笠地区児童生徒の書く力を向上させる。	・『小笠の文集』第130号の作成・編集・発行・活用 ※12月中旬発行

## 平成29年度 教育講演会について

日時：平成29年8月1日(火)  
会場：菊川文化会館アエル  
講師：佐藤 淳一 氏 仙台市教育委員会学校教育部参事(元石巻市立雄勝中学校長)  
演題：東日本大震災 - 多くを失った子ども達に学校教育は何ができるのか -  
日程：受付 13:20 ~ 13:50  
あいさつ・講師紹介 14:00 ~  
講演 14:15 ~ 15:45 (90分間)  
お礼の言葉・閉会 15:45 ~ 16:00  
※ 講演会終了後、ロビーにて講師著書の書籍販売(売り上げは震災復興支援に)があります。

## H29静岡県教育研究会 評議員会・研究部代表者会 報告 H29.6.2 県会館

※ 小笠から、協会会長；飯田一貴(堀之内小)と協会幹事；田島あい子(千浜小)が参加

### 1 H29 静教研基本テーマ 『ときめき かかわり 未来へつなぐ』

3大事業を柱に充実をめざす。

① 研究大会 本年度 8/9(水)10(木)  
H30は8/8(水)9(木) H31は8/7(水)8(木)で決定済み

② 調査研究活動 統計グラフコンクール 定着度調査  
各部調査研究

③ 研究成果刊行 静教研だより(6・9・1月) 研究冊子(12月) 各部報



### 2 浜松市の静教研離脱 ~ 在り方検討委員会設置・検討の経緯 等について

(1) H26.10月離脱意思表示

理由 ①市教研充実 ②多忙化解消 ③旅費がない(経費節減)

(2) 離脱時期をH30年度末 = H31年度から浜松市は静教研に加盟しない

(3) それによって、静教研の研究大会会場や発表のローテーションが変更

→ 変更後の小笠・榛原が担当する大会

H29 国語

H30 数学と道徳

H31 書写と理科と特別支援

H32 音楽

H33 技家と英語

※ 発表地区のローテーションは、各部が決めていくこととなります。

(4) 課題

① 離脱による会員数減で、全体を約8割の予算と会員で賄う。→ 今から緊縮財政

② 浜松市の研究大会への参加は、H31から会員でないのになし。H29・30は今まで通り

③ 全国につながる教職員研究や児童生徒の作品賞揚

→ 市全体で入るものは賛助金納入で対応する。 → 今後、細則等で

(5) コンセプト「静教研をつぶさない！」を貫く。

静教研の新たな出発ととらえ、今後の方針を明確に示す検討をしていく。

## 連絡

平成30年度の講演会・一斉研の予定(今のところ)について

※ まだ確定ではありませんが、ほぼ次の期日で調整・確認をしているとことです。

H30小笠教育講演会 8月7日(火)

H30一斉研究報告会 11月14日(水)